

# 動物文学作家シートンの初版本を集成

自然学者、青少年教育者、先住民文化研究者など多才なシートンの本質に迫る主要著作をセレクト。



## アーネスト・T・シートン主要著作集 ERNEST THOMPSON SETON: THE MAJOR WORKS

監修・解説：野田研一（立教大学教授、元ASLE-Japan/文学・環境学会代表）

### ■ Part 1

全6巻セット定価 本体133,000円（税込139,650円）2007年10月刊行 ISBN 978-4-902708-79-0

### ■ Part 2

全3巻セット定価 本体72,000円（税込75,600円）2008年1月刊行予定 ISBN 978-4-902708-80-6

### ■ Part 3

全4巻セット定価 本体95,000円（税込99,750円）2008年5月刊行予定 ISBN 978-4-902708-81-3

### ■ Part 4

全4巻+別冊解説セット定価 本体95,000円（税込99,750円）2008年10月刊行予定 ISBN 978-4-902708-82-0

# アーネスト・T・シートンの主要著作集 刊行によせて

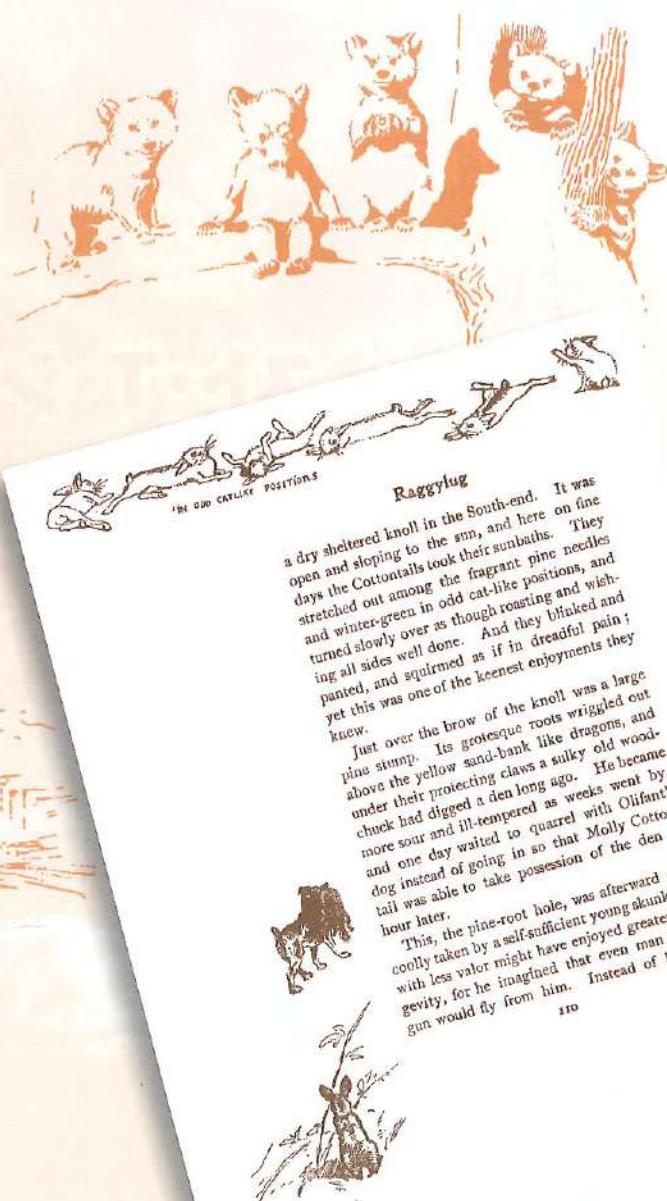
野田 研一 立教大学教授、元 ASLE-Japan/文学・環境学会代表

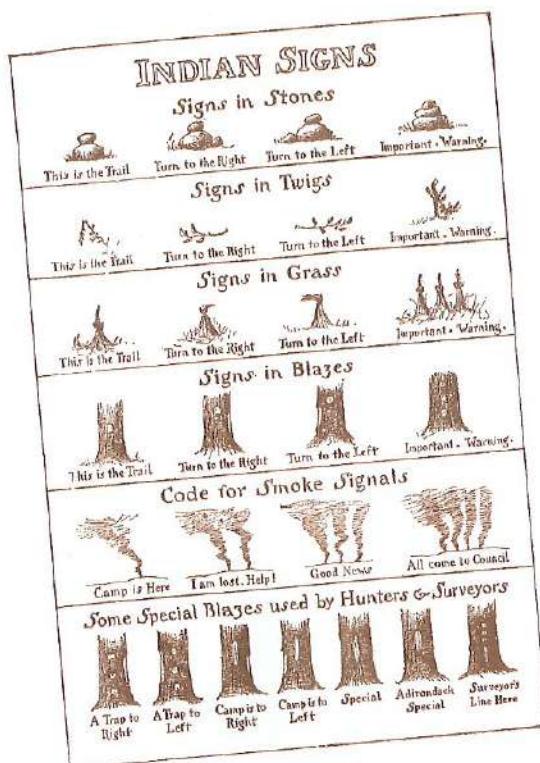
アーネスト・T・シートン(1860-1946)の「狼王ロボ」を始めとする動物文学の傑作に心躍らせたことのある人でも、シートンという作家の全貌を知る人はかならずしも多くないだろう。動物文学といえばシートンといつていいほど人口に膚浅した作家ながら、シートンは、じつはほかにもさまざまな仕事を手がけており、かつそれらがけっして動物文学的なジャンルの仕事と無関係であるどころか、じつに深いところで強い連携関係をもっている。また、シートンの仕事は、20世紀初頭の先駆的環境教育形態である *nature study movement* や、動物文学における擬人化の問題、すなわち、自然観察の客觀性の問題にかかわる *nature faker* 論争に深くかかわっており、ネイチャーライティング研究にあっても見逃せない研究課題を提供していることは間違いない。

ネイチャーライティング研究は、その歴史の浅さゆえ、ヘンリー・D・ソロー研究を一方の軸とし、他方の軸として、エドワード・アビー、アニ・デイラード、パリー・ロバースといった20世紀後半の現代作家にその関心が集中しがちである。言い換えるならば、(自戒を込めて言うのだが)ネイチャーライティングの歴史的研究がやや手薄である。なぜなら、歴史的な視点で検討しようすれば、ある面でマイナー作家の歴史的評価といつてもさか退屈な作業を強いられるからである。おそらく、そうした意味でいうなら、シートンもまたそんなマイナー作家のひとりであろう。ここで私がいうマイナー作家とは、けっして販売部数の多寡に基づくのではない。むしろ、文学作品としての評価を指している。

とはいって、シートンの場合、たんに歴史的評価の対象としてのみとらえるのは愚の骨頂だろう。なぜなら、そもそも動物文学というネイチャーライティングのサブ・ジャンルを本気で検討しようと思うならば、シートンを欠いてはありえないからだ。ネイチャーライティング研究において、ソローの遺産がいかばかりのものかがつねに問題となるように、動物文学研究においてシートンを外すことはできない。いずれにせよ、歴史とジャンル論の両面から、シートンという存在は大きな課題であることは間違いないであろう。

近年、動物と人間の関係をめぐる議論は活気を帯びてきている。それもいわゆるネイチャーライティング研究の外部で起こっている。たとえば、今福龍太・多木浩二『知のケーススタディ』(1996)は、その対論の最初に動物を扱って刺戟的な議論を展開している。主に今福氏が依拠するのは、美術批評家・ジョン・バージャーの「なぜ動物を見るのか」の論点だが、いうまでもなく、1996年に亡くなった人間生態学者ポール・シェパードによる浩瀚な「動物他者論」も、このあたりの議論に深く関与している。また、教育学者・矢野智司による『動物絵本をめぐる冒険』(2002)は「動物-人間学」を明確に標榜し、さらに中沢新一の『熊から王へ』(2002)を始めとする諸著作は、じつに魅力的な人類学的視点を提供している。人間学を再考するに当たって、動物論は不可欠の課題であることがこれらの論者によって明らかにされつつある現在、シートンの本格研究は必須の課題となるであろう。





### WOODMYTH & FABLE

Now here are the chains of the Grouse's trail;  
They turn and they wind about;  
And the Hunter crawls till the flock is sprung  
And whirs from a snow-drift out,  
Save two, which fall at the roar of the gun  
And reddens the dazzling snow.  
(Still keeps the Owl his distance safe,  
But follows, now fast, now slow.)

And here was the place of a poisoned bait,  
Where naught but its print now lies,  
For a Wolf has traced it up the wind  
And swallowed the tempting prize.  
Here 't was gripping his vitals and choking his  
breath—  
That wolfskin is taken at last!  
Seel but a few steps, then he staggered and fell,  
And writhed as his life went fast.



## VI

### War Bonnet, Teepee and Coups

FORTY yards and first shot. Well, that's what the Injuns would call a *grand coup*... and Caleb's face wore the same pleasant look as when he made the fire with rubbing-sticks.

"Oh, I suppose it's a big deed. The Injuns call

a great feint a *coup*, an extra big one a *grand coup*." Sounds like French, an' maybe 'tis, but the

Injuns says it. They had a regular way of counting

their *coup*, and for each they had the right to an

Eagle feather in their bonnet, with a red tuft of

hair on the end for the extra good ones. At least,

they used to. I reckon now they're forgetting it

all, and any buck Injun wears just any feather

"What do you think of our head-dresses?" Yan

"I'm! You ain't never seen a real one or you  
wouldn't go at them that way at all. First place,  
the feathers should all be white with black tips,  
an' fastened not solid like that, but loose on a cap  
of soft leather. Each feather, you see, has a leather  
loop lashed on the quill end for a lace to run through

299



## 本書の内容

- 動物文学の傑作を数多く生みだしたシートンの全貌に迫る主要著作集。自然学者、青少年教育者、先住民文化研究者としての位置付けとともに理解を深める構成。
- 自然観察の客觀性の問題にかかわる nature faker 論争に深く関係、ネイチャーライティング研究にとって見逃せない資料。
- 動物愛護・自然保護に関心が高まるなか、評価の高いアメリカ児童雑誌「セントニコラス」にも寄稿して、児童文学の世界にも影響をもたらした作家の著作集。
- 著者本人の筆による挿画多数。そもそも画家として出発したシートンの理解に有益な要素を含む資料。
- 近年、動物と人間の関係をめぐる人類学的議論が注目される中、本格的なシートン研究が今後必須の課題。
- 多く刊行されている邦訳とともに活用が期待される初版本リプリント。大学・短大図書館必携。

**PART 1: Vols 1–6**

ISBN 978-4-902708-79-0 • c. 2,800 pp. •  
全6巻セット定価 本体133,000円(税込139,650円)

**Volume 1**

*Studies in the Art Anatomy of Animals: Being a Brief Analysis of the Visible Forms of the More Familiar Mammals and Birds; Designed for the Use of Sculptors, Painters, Illustrators, Naturalists, and Taxidermists* (1896) 108 pp., 47 pl.

**Volume 2**

*Wild Animals I Have Known: Being the Personal Histories of Lobo, Silverspot, Raggylug, Bingo, the Springfield Fox, the Pacing Mustang, Wully, and Redruff* (1898) 360 pp., ill.

Lobo, the King of Currumpaw; Silverspot, the Story of a Crow; Raggylug, the Story of a Cottontail Rabbit; Bingo, the Story of My Dog; The Springfield Fox; The Pacing Mustang; Wully, the Story of a Yaller Dog; Redruff, the Story of the Don Valley Partridge

*The Trail of the Sandhill Stag* (1899) 94 pp., ill.

**Volume 3**

*The Biography of a Grizzly* (1900) 168 pp., ill.  
*The Wild Animal Play for Children, with Alternate Reading for Very Young Children* (1900) 80 pp., ill.

*Lives of the Hunted: Containing a True Account of the Doings of Five Quadrupeds and Three Birds* (1901) 362 pp., ill.

Krag, the Kootenay Ram; A Street Troubadour: Being the Adventures of a Cock Sparrow; Johnny Bear; The Mother Teal and the Overland Route; Chink: The Development of a Pup; The Kangaroo Rat; Tito: The Story of the Coyote That Learned How; Why the Chickadee Goes Crazy Once a Year

**Volume 4**

*Two Little Savages: Being the Adventures of Two Boys Who Lived as Indians and What They Learned* (1903) 552 pp., ill.

**Volume 5**

*Monarch, the Big Bear of Tallac* (1904) 216 pp., ill.

*Animal Heroes: Being the Histories of a Cat, a Dog, a Pigeon, a Lynx, Two Wolves and a Reindeer* (1905) 364 pp., ill.

The Slum Cat; Arnaux: The Chronicle of a Homing Pigeon; Badlands Billy: The Wolf That Won; The Boy and the Lynx; Little Warhorse: The History of a Jack-Rabbit; Snap: The Story of a Bull-Terrier; The Winnipeg Wolf; The Legend of the White Reindeer

**Volume 6**

*Woodmyth and Fable* (1905) 182 pp., ill.

*The Natural History of the Ten Commandments* (1907) 84 pp.

*The Biography of a Silver Fox; or, Domino Reynard of Goldur Town* (1909) 210 pp., ill.

**Volume 12**

*Wild Animals at Home* (1913) 244 pp., 48 pl., ill.

*Wild Animal Ways* (1916) 262 pp., 8 pl., ill.  
Coaly-Bay, the Outlaw Horse; Foam; or, The Life and Adventures of a Razor-backed Hog; Way-Atcha, the Coon-Raccoon of Kilder Creek; Billy, the Dog That Made Good; Atalapha, a Winged Brownie; The Wild Geese of Wyndygouls; Jinny, the Taming of a Bad Monkey

**Volume 13**

*The Preacher of Cedar Mountain: A Tale of the Open Country* (1917) 440 pp., 1 pl.

**PART 4: Vols 14–17**

ISBN 978-4-902708-82-0 • c. 1,980 pp. •

全4巻十別冊解説セット定価 本体95,000円(税込99,750円)

**Volume 14**

*Sign Talk: A Universal Signal Code, without Apparatus, for Use in the Army, the Navy, Camping, Hunting, and Daily Life. The Gesture Language of the Cheyenne Indians, with Additional Signs Used by Other Tribes; also a Few Necessary Signs from the Code of the Deaf in Europe and America, and Others That Are Established among Our Policemen, Firemen, Railroad Men, and School Children; in All 1,725* (1918) 288 pp., ill.

*Woodland Tales* (1921) 254 pp., ill.

**Volume 15**

*Bannertail: The Story of a Graysquirrel* (1922) 278 pp., 8 pl., ill.

*The Gospel of the Red Man: An Indian Bible* (1936) 136 pp.

**Volume 16**

*The Biography of an Arctic Fox* (1937) 126 pp., 4 pl., ill.

*Great Historic Animals, Mainly about Wolves* (1937) 336 pp., 8 pl., ill.

**Volume 17**

*Trail of an Artist-Naturalist: The Autobiography of Ernest Thompson Seton* (1940) 424 pp., 16 pl., ill.

*Santana, the Hero-Dog of France* (1945) 62 pp., ill.

**PART 3: Vols 10–13**

ISBN 978-4-902708-81-3 • c. 2,280 pp. •

全4巻セット定価 本体95,000円(税込99,750円)

**Volume 10**

*Rolf in the Woods: The Adventures of a Boy Scout with Indian Quonab and Little Dog Skookum* (1911) 454 pp., 12 pl., ill.

**Volume 11**

*The Book of Woodcraft and Indian Lore* (1912) 588 pp., ill.

*The Forester's Manual; or, The Forest Trees of Eastern North America* (1912) 154 pp., ill.

## 【発行】

Athena Press  
株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail : eigyo@athena-press.co.jp

## 【取扱書店】

# シートンと本著作集の構成



## 1 画家としての出発

シートンは1860年イギリス生まれですが、6歳のときに家族でカナダへ移住、森林を駆け巡る活発な少年時代を過ごします。1879年、絵画の勉強のため名門のロイヤルアカデミー絵画彫刻学校に入学、単身で再びイギリスへ渡ります。この二年間の滞在中には美術研究の傍ら大英博物館にも頻繁に訪れて、オーデュポン、ソロー、パロウズなど同時代の有名な博物学者の著作に触れ、もともと彼が抱いていたカナダの自然や動物への関心をいっそう高めていきました。やがてイギリスから戻ることとなり、カナダ南部のマニトバ州で自然観察、特に野鳥の生態を研究しながら数年を過ごしたのち、1880年代中頃にニューヨークへ移り住みます。以降、自然史研究書や事典、雑誌などで、挿絵画家として大いに活動するようになりました。1896年に出された *Studies in the Art Anatomy of Animals* (Vol. 1) は、彼の画家としての能力と自然研究の成果とが合わさった、シートンの最初の主要刊行物でした。この間にも自然への憧れからシートンはたびたびカナダへ戻ることがあったようです。

## 2 動物作家へ

1880年代には、シートンは挿絵画家としての活動の他に *Forest and Stream*, *St. Nicholas*, *Scribner's Magazine* などなどの雑誌に動物の物語を書くようになります。これらの短編が *Wild Animals I Have Known* (Vol. 2-1) として1つの本にまとめられて1898年に刊行されるとあっという間にベストセラーとなり、他の作品も次々と刊行されていました。こうしてシートンは動物作家として認知されるところとなり、またこの動物文学の成功によってシートンは専業作家として身を立てていくことになるのです。また彼の作品を子ども劇として演じたいという希望を受けて書かれた劇作が本著作集のPart 1に収録されています(Vol. 3-2)。

## 3 “nature fakers”—自然研究者としての自負

一方、彼の成功はジョン・パロウズの関心を惹くところとなります。パロウズはシートン(ほか幾人かの作家たちについて)の動物や自然に対する描写を問題視し、1903年の *Atlantic Monthly* 誌上で攻撃します。これを契機にいわゆる“nature fakers”論争が巻き起こつくるのです。

この論争に対処するためシートンは自らの自然学者としての力量を高めようと考えました。彼は研究著作の準備のため1907年に7ヶ月に渡るカナダ北東部への旅行を行い、1909年刊行の重厚な2巻本 *Life-Histories of Northern Animals* (Vols 7 & 8) に結実させます。これは北アメリカの哺乳動物に関する先駆的な研究のひとつとされるもので、この旅行行程を記した著作 (Vol. 9)とともに、本著作集Part 2を構成しています。

*Life-Histories* のうちに4巻本の *Lives of Games Animals* として増補刊行されますが、シートンの動物の分布と行動に関する先駆的研究を理解する上で、またシートンの動物文学と自然研究との関係を解釈す

る上では、“nature fakers”論争に応えようとして書かれたこの著作のほうがより密接な位置にあり、本著作集ではこれを採用しました。

## 4 青少年教育とアメリカ先住民文化への関心

このシリーズのPart 3とPart 4は、彼が後半生に示した更なる2つの関心を解明する著作が含まれています。それはすなわち青少年教育とアメリカ先住民文化です。

1902年以降シートンは、彼が“woodcraft”(森林生活法)と呼んだ内容で少年少女を教育する青少年キャンプを催すようになります。そこでは、動物の足跡や植物・樹木、食用きのこなどの識別方法、火のおこし方と荒野での野宿などが教えられ、一言で言えば自然との共生をテーマとしたものでした。この問題に関わる彼の思想は、そのほとんどがアメリカ先住民の生き方や哲学・宗教に影響されたものです。これらのキャンプはすぐに広まり、あっという間に Woodcraft Indians (のちに Woodcraft League of America )という全米的な組織に発展しました。

興味深いのは、イギリス人のバーテン=パウエルが興したボイスカウトの動きに対して、シートンが当初は協調していくながら、その権威主義的な面と愛国的で軍隊方式に依拠したありかたに反発して、すぐに距離を置くようになったことでしょう。ここに収録されている *The Book of Woodcraft and Indian Lore* (Vol. 11-1) は、シートンが Boy Scouts of America と離れてから書かれたもので、Woodcraft Indians の教科書的な存在です。1912年に刊行されていますが、ここでは同じ年に出されたアメリカの樹木ガイド *The Forester's Manual* (Vol. 11-2) を付け加えました。これらは共に、彼の自然教育活動の独自性や理念を読み取る好個の資料といえるでしょう。フィクション形式の *Two Little Savages* と *Rolf in the Woods* (それぞれVol. 4、Vol. 10)もまた、シートンが青少年教育の考えを表現したもので、キプリングのアドバイスによつて書かれたものと言われています。

シートンはまた、先住民の権利平等運動やいわゆる「インディアン条約」の見直し、部族文化保護に関わるようになります。アメリカ先住民については先の *The Book of Woodcraft* (Vol. 11-1) のなかで多くの章を割いていることに加え、初期の記号論にとっても重要である *Sign Talk* (Vol. 14-1) で先住民のコミュニケーションを紹介し、さらに *The Gospel of the Red Man* (Vol. 15-2) で先住民から学ぶべきと考えていた事柄の概略を示しています。

そして最後には1940年刊行の自叙伝を加えました (Vol. 17-1)。

## 5 本著作集について

このとおり、今回刊行される「シートン主要著作集」は動物文学—その多くは邦訳があるばかりでなく、美術と動物解剖学、自然史、動物生態、青少年教育、アメリカ先住民関係、旅行記、自叙伝といった多くのジャンルを含んでいる、シートンの本質に迫ろうとする取り組みです。この著作集は学術的な利用に向けて構成されたもので、収録される28作品すべてオリジナルのテキストと図版である初版を用いて復刻しています。